

2023年5月25日

第8期(2021-2022) FD 推進委員会 最終報告

FD 推進委員会

【活動経過】※第1期～第4期までは記載省略

第5期(2016年度～2017年度)

2016年4月	第5期 重点的課題 授業改善のための学生アンケートの再点検・再検討
2016年7～8月	授業改善のための学生アンケート(前期科目)全学実施 授業改善のための学生アンケートについての教員アンケート全学実施
2016年11月	第6回よりよい学びのための学生懇話会(学部生対象)実施
2017年1月	授業改善のための学生アンケート(通年・後期科目)全学実施
2017年6月	2016前期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書Web公表 2016後期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書Web公表 FD教職員ワークショップ実施「授業運営の現状と課題について」*1
2017年7月	授業改善のための学生アンケート(前期科目)全学実施
2017年8～10月	2017前期授業改善のための学生アンケート(前期科目)顕彰授業表彰 および 顕彰授業における工夫Web公表 *2
2017年10月	第5回よりよい学びのための院生懇話会(大学院生対象・全専攻合同)実施
2018年1月	授業改善のための学生アンケート(通年・後期科目)全学実施
2018年4～5月	2017後期授業改善のための学生アンケート(通年・後期科目)顕彰授業表彰 および 顕彰授業における工夫Web公表 *2

平成29年度私立大学等改革総合支援事業 タイプ1 教育の質的転換

*1 申請項目10『FD実施のための組織の設置及び教員の参加状況』対応

*2 申請項目8『学生による授業評価結果の活用』対応

第6期(2018年度～2019年度)

2018年4月	第6期 重点的課題 授業改善のための学生アンケートの再点検・再検討
2018年7月	FD講演会実施(「大学生の発達障害とその対応方法について」五十嵐一枝先生)
2018年9月	2017前期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書Web公表 2017後期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書Web公表
2018年7～8月	授業改善のための学生アンケート(前期科目)全学実施
2018年10月	2018前期授業改善のための学生アンケート(前期科目)顕彰授業表彰 および

	顕彰授業における工夫 Web 公表
	第 7 回よりよい学びのための学生懇話会（学部生対象）実施
2019 年 1 月	授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）全学実施
2019 年 4～5 月	2018 後期授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）顕彰授業表彰 および 顕彰授業における工夫 Web 公表 ^{*3}
2019 年 7 月	授業改善のための学生アンケート（前期科目）全学実施 FD 教職員講演会実施「アクティブ・ラーニングへの取り組みについて」 ^{*3}
2019 年 10 月	第 6 回よりよい学びのための院生懇話会（大学院生対象・全専攻合同）実施 2018 前期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表 2018 後期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表
2019 年 12 月	授業改善のための学生アンケート（前期科目）顕彰授業 および 顕彰授業における工夫 Web 公表 ^{*4}
2020 年 1 月	授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）全学実施
2020 年 6 月	授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）顕彰授業 および 顕彰授業における工夫 Web 公表 ^{*4}

*3 令和元年度 教育の質に係る客観的指標調査票 に対応

*4 令和 2 年度 教育の質に係る客観的指標調査票 に対応

第 7 期（2020 年度）

2021 年度より学内委員の任期が 2 年となる。今期は特別に 1 年として報告をする。

2020 年 4 月	第 7 期 重点的課題 授業改善のための学生アンケートの再点検・再検討
2020 年 6 月	授業改善のための学生アンケート（「遠隔授業に関する状況調査アンケート」） 全学実施 FD 講演会実施（学内 FD シンポジウム「よりよい遠隔授業の実践に向けて」） ^{*4}
2020 年 7 月	2020 年度前期「遠隔授業に関する状況調査アンケート」結果 Web 公表
2020 年 10 月	授業改善のための学生アンケート（後期・通年科目）1 回目 全学実施 FD（授業改善）の取り組み HP「教育の特色」へ掲載
2021 年 12 月	よりよい学びのための学生懇話会（学部生対象）実施
2021 年 1 月	授業改善のための学生アンケート（後期・通年科目）2 回目 全学実施
2021 年 1 月	学修支援ツール(LMS)「manaba course」概要説明会（教員用）実施
2021 年 3 月	学修支援ツール (LMS)「manaba course」教職員研修会（合同）実施

*4 令和 2 年度 教育の質に係る客観的指標調査票 に対応

第8期（2021～2022年度）

2021年4月	第8期 重点的課題 授業改善のための学生アンケートの再点検・再検討
2021年6月	FD講演会実施（「発達障害の理解と対応」宮本信也先生）*5
2021年7月	授業改善のための学生アンケート（前期科目）全学実施
2021年11月	SD講演会参加（「ハラスメント・防止対策のための教職員向けオンライン講演会」 主催：ハラスメント防止・対策委員会）*6
2021年11月	2021前期授業改善のための学生アンケート（前期科目）顕彰授業表彰 および 顕彰授業における工夫 Web 公表 *6
2021年12月	よりよい学びのための学生懇話会（学部生対象）
2022年1月	授業改善のための学生アンケート（後期・通年科目）全学実施
2022年6月	2021後期授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）顕彰授業表彰 および 顕彰授業における工夫 Web 公表 *6 FD研修会実施（「建学の精神に基づく白百合女子大学の教育活動」 高山貞美学長、釘宮明美教授、海老原晴香准教授）*6
2022年7月	授業改善のための学生アンケート実施（前期多人数科目対象）
2022年10月	2022前期授業改善のための学生アンケート（前期多人数科目）顕彰授業表彰および 顕彰授業における工夫 Web 公表
2022年12月	SD研修会実施（「データサイエンスに関する動向と本学における取り組みについて」 匂坂智子先生）
2023年1月	授業改善のための学生アンケート実施（通年・後期多人数科目対象）
2023年5月	授業改善のための学生アンケート（通年・後期多人数科目）顕彰授業 および 顕彰 授業における工夫 Web 公表

*5 令和3年度 教育の質に係る客観的指標調査票 に対応

*6 令和4年度 教育の質に係る客観的指標調査票 に対応

【2022年度 活動報告～第8期2年目～】

I. 授業改善のための学生アンケート（学部）

昨年度より、回答にかかる負担の軽減とより適切なアンケートの実施を目的に検討を重ね、今年度から実施対象科目を多人数科目と少人数科目に分けて実施し、2年間で全科目を網羅することとした。今年度は各学科・教育センター指定の多人数科目（履修者概ね26名以上）を対象に実施した。多人数科目が対象のため、大学院科目は対象外となった。経年比較のため前年度と同じ質問項目（一部文言変更）、形態で実施し、集計結果は各授業担当教員へフィードバックした。アンケート結果の全体的な傾向と、担当教員およびFD推進委員会から学生に向けてのメッセージを掲載した報告書は以下HPにて公表した。

(<https://www.shirayuri.ac.jp/guide/financial/index.html#fdenquete>)

また、2017 年度よりアンケート結果を活用した顕彰制度を導入しており、授業の優れた点を全学的に共有した。なお、Web での実施につき回答率に偏りがみられることから、本年度後期より各授業の回答率を考慮して顕彰授業を選考した。詳細は別紙 1 のとおり。

前期 2022 年 7 月 8 日（金）～ 7 月 28 日（木） 実施科目数：168 科目

後期 2023 年 1 月 11 日（水）～ 1 月 31 日（火） 実施科目数：193 科目

II. よりよい学びのための学生懇話会（学部生対象）

学部生を対象に、自己点検・評価委員会及び学内からの要望に基づき、「初年次の必修科目（キリスト教学、情報リテラシー、パブリックリテラシー）で学びたいことって何？」「これからの女子大での教育ってどうあるべき？」の 2 点をテーマとして実施した。

当日は 3 グループに分かれ、各学生が自身の受講を振り返り、良かった点や改善点を出し合い活発な意見交換の場となった。報告書（別紙 2）は内部質保証委員会、基礎教育センター、カトリック教育センターへ提出した。

実施日時：2022 年 12 月 7 日（水）12:10～12:55

参加者数：学部生 12 名、教員 3 名、職員 3 名

III. 学内 FD・SD 研修会

FD 研修会「建学の精神に基づく白百合女子大学の教育活動」

本学の理念・目標の理解を深め、よりよい授業実践、学内活動運営を目指して開催した。詳細は別紙 3 のとおり。

実施日時：2022 年 6 月 30 日（木）14:30～16:00

テーマ：建学の精神に基づく白百合女子大学の教育活動

参加者数：専任教員 80 名 ※専任教員参加率 100%（サバティカル・休職者除く）

専任職員 53 名 非常勤職員 21 名 合計 154 名

SD 研修会「データサイエンスに関する動向と本学における取り組みについて」

データサイエンスに関する動向を学ぶとともに、大学教育に求められている課題やその対応について教職員間で共通理解を図り、授業及び業務改善を目的として開催した。詳細は別紙 4 のとおり。

実施日時：2022 年 12 月 5 日（月）16:30～18:00

テーマ：データサイエンスに関する動向と本学における取り組みについて

参加者数：専任教員 80 名 ※専任教員参加率 100%（サバティカル・休職者除く）

専任職員 56 名 非常勤職員 24 名 合計 160 名

IV. 各学科・センターにおける FD・SD 活動について

教育組織ごとに行っている研修や学科講演会等の試みを記録し、互いに参考にする取り組みを 2021 年度後期より導入した。2022 年度の活動内容は別紙 5 のとおり。

以上

「授業改善のための学生アンケート」2022 年度前期 顕彰授業について

2022 年 10 月 4 日

白百合女子大学 FD 推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」は 2010 年度より実施し、2017 年度からは集計結果を活用した顕彰制度を導入しています。アンケートの結果は個々の授業改善に役立てられているほか、高評価を得た授業を公表し、その授業の優れている点を大学全体で共有しています。なお 2022 年度より 2 年間で全科目のアンケートを実施することとなり、今年度は履修者数が概ね 26 名以上の授業についてアンケートを実施いたしました。

2022 年度前期の結果は以下のとおりです。顕彰された授業についてのインタビュー等を追って公開する予定です。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

2022 年度前期

金 1 前 「キャリア研究」山本 みどり (文学部英語英文学科)

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の目的 (実施要領より抜粋)

- ① さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。
- ② 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- ③ 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- ④ 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- ⑤ 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を活用した顕彰制度

[実施方法]

- ① 実施時期は各学期末とし、前期末は前期科目、学年末は後期科目と通年科目を対象とする。
- ② 集計の単位は授業毎とする。学部科目と大学院科目を区別しない。
- ③ 集計する設問は、以下の 7 項目 (項目毎の平均点の合計/35 点満点) とする。
 - Q3 この授業に主体的に取り組むことができましたか。
 - Q4 この授業の内容を十分に習得できましたか。
 - Q7 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。
 - Q8 教科書や配付資料など、教材は適切だったと思いますか。
 - Q11 学生の質問や相談に対して、教員は適切に対応していたと思いますか。
 - Q13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できましたか。
 - Q14 この授業の内容に興味を持つことができましたか。
- ④ 顕彰対象は当該年度のアンケート実施対象授業とする。
- ⑤ 顕彰対象は各学期第 1 位の授業とし、その授業の担当教員へ表彰を行う。
- ⑥ 表彰授業・担当教員名は、大学 Web サイトにて公表する。

[実施主体]

白百合女子大学 FD 推進委員会

以上

「授業改善のための学生アンケート」2022年度後期 顕彰授業について

2023年4月27日

白百合女子大学FD推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」は2010年度より実施し、2017年度からは集計結果を活用した顕彰制度を導入しています。アンケートの結果は個々の授業改善に役立てられているほか、高評価を得た授業を公表し、その授業の優れている点を大学全体で共有しています。なお今後は2年間で全科目のアンケートを実施することとし、2022年度は履修者数が概ね26名以上の授業についてアンケートを実施いたしました。

2022年度後期の結果は以下のとおりです。顕彰された授業における工夫等を追って公開する予定です。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

2022年度後期

火5後 「子どものイメージ」森下 みさ子 教授 (人間総合学部児童文化学科)

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の目的 (実施要領より抜粋)

- ① さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。
- ② 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- ③ 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- ④ 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- ⑤ 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を活用した顕彰制度

[実施方法]

- ① 実施時期は各学期末とし、前期末は前期科目、学年末は後期科目と通年科目を対象とする。
- ② 集計の単位は授業毎とする。学部科目と大学院科目を区別しない。
- ③ 集計する設問は、以下の7項目(項目毎の平均点の合計/35点満点)とする。
 - Q3 この授業に主体的に取り組むことができましたか。
 - Q4 この授業の内容を十分に習得できましたか。
 - Q7 教員の説明はわかりやすかったですか。
 - Q8 教科書や配布資料など、教材は適切でしたか。
 - Q11 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切でしたか。
 - Q13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できましたか。
 - Q14 この授業の内容に興味を持つことができましたか。
- ④ 顕彰対象は当該年度のアンケート実施対象授業とする。
- ⑤ 顕彰対象は各学期第1位の授業とし、その授業の担当教員へ表彰を行う。
- ⑥ 表彰授業・担当教員名は、大学Webサイトにて公表する。

[実施主体]

白百合女子大学FD推進委員会

以上

2022年度学生懇話会報告書

2022年12月14日

FD推進委員会 学生懇話会WG（大槻、菊地、畠山）

1. 概要

日 時：2022年12月7日（水） 12：10～12：55

参加者：学生12名（国文0名、仏文3名、英文1名、児童1名、発達5名、初等2名）、
教員3名（菊地、土井、畠山）、職員3名（大槻、北野、森田）

場 所：11号館3階クララホール

2. スケジュール

12：00～ 開場

12：10～ 開会の言葉、趣旨・スケジュール説明

12：15～ グループセッション

12：45～ まとめ（グループ発表）

12：55 終了

3. テーマ

- ① 初年次必修科目で学びたいことって何？
- ② これからの女子大での教育ってどうあるべき？

4. 報告

テーマ①については、学年によって初年次必修科目を完全オンラインで受講したか、対面も交えて受講したかが異なり、それぞれの立場から自身や友人の経験が語られた。

「情報リテラシー」について、メールの書き方やWord、Excelといった基本ソフトの使い方を学ぶことが出来る点は好評であった。一方で、自前のPCを持たない学生も増えてきていることもあってか、習熟度に差があり、授業が基礎的な内容にとどまってしまう、または授業内容についていけないことに対し、不満を持つ者も少なからずいた。

「パブリックリテラシー」について、著作権やレポート執筆の際の参考文献の扱いなど、大学生活において必須の内容を学ぶことができ有意義であるという意見が多かった。一方で、PCの操作を前提とする授業内容も少なくないため、習熟度にばらつきがあり、その対策として「情報リテラシー」における学びを経た後に「パブリックリテラシー」へ移行した方がよい、二つを統合した方がスムーズなのではないか、という意見もあった。

「キリスト教学」について、グループワークを取り入れた内容が好評で、オンライン環境

下でも各自の意見を交換する場が持たれたことにメリットを感じる学生が多くいた。しかし一方で、高校までにキリスト教についての基礎的な知識を習得している者もあり、必修科目としての扱いは2年次まででもよい、また習熟度に応じたクラス分けが必要、という意見もあった。

初年次必修科目に関する議論に共通して、習熟度に応じたクラス分けを望む声が多く聞かれた。またクラスによって課題の量や内容が異なる点についても、不満を持つ学生は少なくなかった。

テーマ②については、女子大のメリットとして、少人数教育、手厚い就職支援、女子のみであることによる生活のしやすさなどへの言及が多かった。高校まで女子校に在籍していてその雰囲気分かっているから志望したという者もいれば、共学校に通っていて進路選択時に女子大を候補のひとつとしていたという者もいた。

一方で、卒業後の進路に関して悩みを抱えている学生も少なくなかった。例えば、各学科に設置されている「キャリア研究」の授業では、卒業生がゲストスピーカーとなって、学科での学びをどのようにキャリアに生かしているかを語るケースが多い。しかしそこに登場する卒業生を誰にするかは、担当教員や学科がある程度恣意的に決定せざるを得ず、必ずしもバリエーションに富んだものとはいえない。そのことを踏まえ、学科での学びとは一見関係ないように思える進路だとしても、学生の選択肢を広げるようなキャリアの可能性を提示してほしいという意見も複数寄せられた。

懇話会全体を通じて、単に授業や学校生活に対する不満を述べるだけでなく、各参加者がより良い学びを実現するための改善案を具体的に提示していた点が印象的であった。この懇話会報告を踏まえ、カリキュラムのブラッシュアップを引き続き実施していく必要があるだろう。

5. 参考資料——学生の意見（カッコ内は学年を示す。不明の場合あり）

テーマ①

<初年次必修科目で学びたいことって何？>

➤ 情報リテラシー

- コロナ初年度、大学から受け取った何十枚もの PowerPoint を自分で読み授業に臨んだのが大変だった。授業内容は今後社会に出た時に役立てられると感じた。(3)
- 良かったのは、メールの送り方（宛名の書き方など）を最初に学べたこと。他の科目のオンライン授業の際にも活用することができた。(3)
- 対面授業、オンライン授業どちらでも直接やメールで先生に質問をすることができ、次年度からの課題提出に役立たせることができた。(2)
- ネットの情報や Word や Excel の使い方や情報を学べたのは有益だった。オンラインでは自習のような形が多く、気軽に質問ができず難しく感じた。(2)

- ◆ オンライン授業はすぐに質問ができず、一人でやるため、うまくいかない時に困った。わからないものがそのままになってしまった。大学に一度も通っていない状態で聞ける人がおらずメールでの質問も気軽にできず、もう少し質問がしやすかったり、友達と相談できたりする環境が欲しい。(複数)
- ◆ 授業内容については Excel やセルの操作方法など基礎だけでなく、小学校や幼稚園の教員になった際、将来的にも役立てられる部分を教えてほしい。(2)
- ◆ 大学で最初にワード・エクセルの使い方が学べたのは良かった。情報の検索の仕方、ひとつの情報だけでなく色々な情報を検索することの必要性を学び、その後のレポート作成等に活かした。(2)
- ◆ 半年の授業は短い。2年生でもやりたかった。また、PC が得意な学生と苦手な学生が授業に混在しているため、苦手な子の指導に先生がついてしまう。そのため課題が終わってしまうと得意な学生は手持無沙汰になってしまった。(2)
- ◆ 高校では PC を使ったことがなかったので、ワード・エクセルが学べたのは良かった。苦手な自分は授業内に課題が終らず、家に持ち帰りこなすのが負担だった。(2)
- ◆ ワード・エクセルが学べたのは助かった。各回授業のテーマ課題が決まっていた学生レベルがまちまちなので課題をこなすとその授業ですることが無くなってしまふ。学生の習熟度でクラス分けしてもらえると良かった。(4)

➤ パブリックリテラシー

- ◆ 著作権の扱い方を主に学んだ。課題提出の際は前期の集大成を作り出せたという達成感を味わえる授業だった。内容は社会に出た時に役に立つ授業だと感じた。(2)
- ◆ 参考文献の書き方など他の授業で活用できたのでよかったが、授業によっては書き方が変わるので、もっと詳しく学びたかった。(2)
- ◆ 著作権の取扱いに関して等多くは一般常識的な内容で、学科の授業で学ぶ部分と重複している点もあり、あまり印象に残っていない授業。(3)
- ◆ 他の授業よりも課題も多く、取り組むのに時間を費やした授業。回にもよるが、当時は1年生でパソコンになれておらず、レポートの書き方や注釈引用の操作を自力でやる作業に時間がかかった。レポート課題の多い学科は前期にレポートの書き方を学ぶのは良いと思うが、パソコンの使い方も同時に学びたかった。(3)
- ◆ 先にパソコン操作から学びたかった。厚い教科書を購入したのに、授業ではあまり使わない。もっと細かい内容を学びたかった(3)
- ◆ 先生によって進める速度や課題も違うように感じる。担当の先生はかなり課題に厳しく毎週課題が出たが、友人は3回に1回程度だったので不公平に感じた。課題の頻度や量や内容を統一してほしい。(2)
- ◆ 受講者数が15人から40人くらいとばらつきがあるようだった。同じ授業名な

らば同じ授業環境にした方がよい。(複数)

- ◆ レポートの書き方やビジネスメールの書き方を初めに学べるのが良かった。情報リテとパブリテの2科目の修得順は情報リテが先のほうが良いのでは？ ワードやPC操作を学んだあとじゃないとパブリテの授業にすんなり入れない。(2)
- ◆ 情報リテラシーとパブリックリテラシーの授業内容が合体したような授業展開のほうが良い。(2)
- ◆ 資料がいまだに役に立っている。課題の量が多かった。(2)
- ◆ 引用・参考文献の書き方など先々役に立った。大学に入ったばかりの1年生には課題の多さは負担かもしれないが改善されてもよいかも。(4)

➤ キリスト教学

- ◆ 初めて聖書に触れた上にオンラインだったため文章で解説を読むだけでは頭に入ってこなかった。2年次で対面授業になり、板書をみながら先生に解説してもらうことで理解が深まった。(3)
- ◆ キリスト教学を学ぶことで、生きていく上でどうすればよいのかを考えられた。具体的には manaba course に自分の人生について学生それぞれが書く機会があり、受講生でコメントをし合った。他の学生の話から学ぶことや、自分の体験から気づきがあった人がいると知れる良い授業だった。(2)
- ◆ 中高からキリスト教には触れていたため授業はわかりやすく、試験も取り組みやすかったが、友人はゼロから始めるので難しいと言っていた。1年次は参加型でグループワークもあり反復学習ができたが、2年になり講義型になり、1年次と比べると取り組みづらくなった。テストもかなり難しく、先生によって授業の雰囲気が変わる。(2)
- ◆ 1年次はオンライン、ラジオ形式をリアルタイム聞き、チャットで課題(コメント)を入力する授業だった。授業を受けながら受講生の意見が見られ、目からも耳からも解説してくれるのでわかりやすく、学んだことを他で活かした。2年次は先生が一方向的に話す講義形式になり、1年次の方が楽しかった。(3)
- ◆ 講義型よりも参加型の方がキリスト教については学びやすく取り組みやすい。そういう機会を増やしてほしい。(3)
- ◆ クラスによってテストの難易度が違うため統一したほうが良い。(3)
- ◆ 授業は朝が早く、内容はディスカッション・動画鑑賞が多かったイメージ。高校が仏教系だったので不安だったが、詳しく学べて一般教養としても役に立っていると思う。聖書の持ち運びが大変、聖書は購入させられたが授業では使わなかった。教員によって教え方や評価方法が違うイメージ。ショッキングな映像を見せられることがあったが、気分が悪くなる学生もいるため予告は必要。リアペヤリレポートより、自分としてはテストを実施してもらう方が学習効果が高いと思う。授業もデ

- イスカッションで他の人の意見を聞けるため学修効果が高いと思う。(2)
- ◆ 中高からミッション系の学生には4年生までの宗教履修は辛い。必修は1・2年まででよい。(2)
- ◆ 聖書の言葉や考え方が学べたのは良かった。(2)
- ◆ リアペ、教員により授業の進め方や方針が違う。宗教の必修は1・2年までで良い。(4)

テーマ②

〈これからの女子大での教育ってどうあるべき？〉

➤ 女子大のメリット

- ◆ 少人数教育とうたっている大学は面倒見がよいため本学を選択した。(2)
- ◆ 女子大は共学だった高校のときより、そこまでカーストのようなものを気にしなくてよい。(3)
- ◆ 前期のキャリア研究で、時代が変わるにつれて、女性の在り方・見方は変わることや、「女性は家事をするもの」というのは古い概念だということを学んだのは女子大ならではのと思った。(2)
- ◆ 幼・少・中と共学で、高校は女子高を選択。少人数でアットホーム、校舎がきれい、ものをきれいに使うということや、グループでもみんながリーダーを経験できて、カーストもあまりなさそうという理由で女子高を選んだ。また、みんなが知り合いのような、和やかな独特な雰囲気が好き。(4)

➤ 女子大で学びたいこと

- ◆ 経営的に厳しい面もあるのかもしれないが、ITの授業も始まって今は変化の時かと思うので、授業のカリキュラムも時代に合わせてもっと変わってほしい。学生会ではメイク講座などもやっているように。また、キャリアの変化に合わせた内容をもっと取り入れてくれたらキャリア支援課もより利用するようになると思う。学科の卒業生の話を知りたい(4)
- ◆ 「キャリア研究」などを通じて、フ文の卒業生(先輩)の話を知ることができ、フランス語を生かせる職業について知ることができた。先輩がグループの間を回って質問に答えてくれた。(2)
- ◆ 学科に関係ない職に就いた先輩の話も参考になる。学科の学びが別の職で活かしている、という話が授業で聞けるとよい。(3)
- ◆ 先生にならない人の進路をもっと知りたい。(2)
- ◆ メールでキャリアなどのセミナーの案内がくるが、タイトルだけではわからない

ので、それがどう何に役立つのかを解説してほしい(2)

- ◆ 専門とは別の分野に関心があり、発達心理ではない分野に進むことが決まったが、本学がアットホームとはいえ、発達はゼミでも上下の交流はないため、自分から動かないと進路はつかめないことを実感している。(4)
- ◆ 「キャリア研究」が、逆にキャリアの幅を狭めている可能性もあるのではないか。また大学が捉える(学校パンフレットに載るような)キャリアと学生の知りたいキャリアにギャップがあるのかもしれない。(教員)

➤ 女子大を大切な知り合いに勧めるか

・選択肢としてあってよい。職員が親身になってくれ少人数なところもよい。(複数)

・知り合いに進めるかと言われれば、迷う。ただ少人数の中で、相性があう先生を見つけられれば一番いいと思う。(4)

2022年9月22日
FD推進委員会

FD 研修会「建学の精神に基づく白百合女子大学の教育活動」実施報告書

本学の理念・目標の理解を深め、よりよい授業実践、学内活動運営を目指すため、学内FD研修会を企画した。教育実践の課題や、学生との関わりにおける事例等を共有し、いまいちど本学の理念・目標と、教育実践・学生との関わりとのつながりに着目することで、学生・教職員双方にとってよりよい教育活動の実施に結びつけることをねらいとしている。詳細は以下の通りである。

日 時 : 2022年6月30日(木) 14:30~16:00

方 法 : Zoom でのリモート配信

テ ー マ : 「建学の精神に基づく白百合女子大学の教育活動」

研修内容 :

1. 「白百合女子大学の建学の精神」 高山 貞美 学長
2. 教育プロジェクト実施担当者から(1)
「建学の精神に根ざした教育～宗教学科目を事例として～」
釘宮 明美 (カトリック教育センター長)
3. 教育プロジェクト実施担当者から(2)
「建学の精神に根ざした教育～宗教学科目以外を事例として～」
海老原 晴香 (カトリック教育センター)
4. 参加者ワークショップ「建学の精神と担当授業・業務とのつながりに着目する」

対 象 : 本学専任教員(助教及び特別専任を含む)

※学生対応・サポートにあたるスタッフを対象とした SDとしても有用な内容であることから、職員(専任及び非常勤を含む)向けにはSDとして実施した。

講演内容 :

高山 貞美学長からは、どのような経緯で本学が建学されたか、またその根底にある建学の精神について講話がなされた。本学の設立母体であるシャルトル聖パウロ修道女会は、17世紀末にフランスの寒村で誕生し、当時の貧しい人々を擁護し、女性や子どもたちの教育に力を注いできた。本学は、このキリストの精神に倣って、人間一人ひとりをかけがえのない存在として大切に思い、自ら進んで他者に仕え、社会に貢献しようとする心の育成を重視していることが述べられ、授業や諸活動・業務において大切にしたい旨が伝えられた。

釘宮 明美カトリック教育センター長からは、宗教学科目における建学の精神に根ざした教育の取り組みについてお話がなされた。新入生ガイダンスと「キリスト教学I」の初回授業を例に、本学の宗教学科目で大切にしているカトリシズムの人間観についてもご説明があった。学生のリアクションペーパーの記述内容等から、建学の精神やカトリシズムの人間観について真摯に向き合い、理解を深めている様子がみてとれた。

また、海老原 晴香カトリック教育センター准教授からは、宗教学科目以外の事例における建学の精神に根ざした教育の取り組みについてお話がなされた。

最後に、Zoomのブレイクアウトルームの機能を使い、4名程度でグループディスカッションを行い、建学の精神と担当授業・業務とのつながりについて、各自意見交換を行い、理解を深めた。

参加者アンケート集計結果（回答数152名） ※8月2日集計時点

1 参加人数：専任教員 参加者80名/研修対象80名（参加率100%）

※2022年5月1日在籍の専任教員84名のうちサバティカル、休職等を除く80名が集計対象

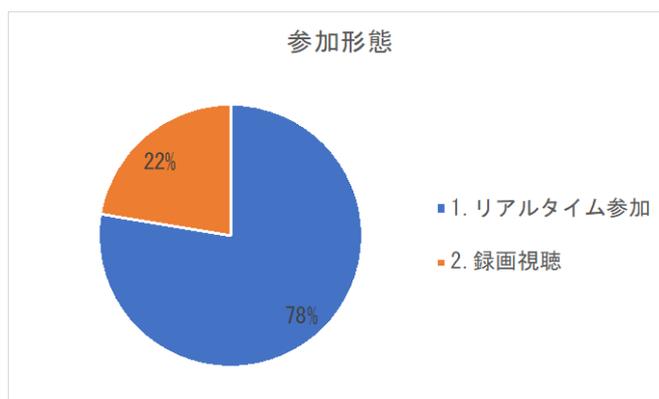
（参考）その他の参加者 73名（専任職員53名，非常勤教員21名）

参加した教職員の総計 154名

2 結果

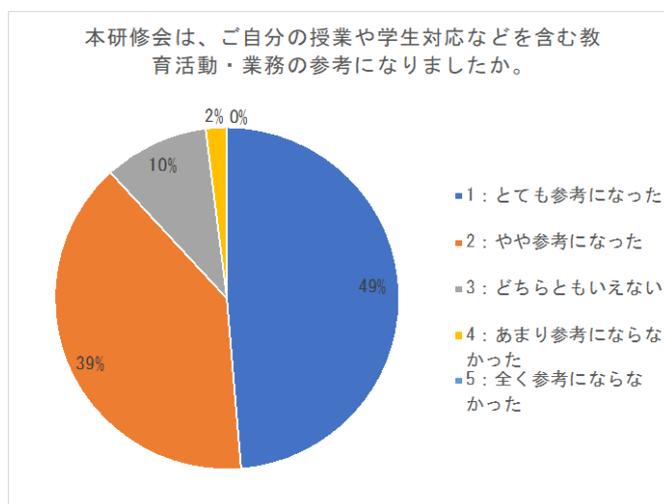
① 参加形態（n=152）

リアルタイム118名，動画視聴34名



② 研修会の内容（n=152）

1：とても参考になった	74名
2：やや参考になった	60名
3：どちらともいえない	15名
4：あまり参考にならなかった	3名
5：全く参考にならなかった	0名



③ 今回の研修についての意見・感想

(内容について)

- ・ 普段の授業では、あまり建学の精神との関係は意識していませんでしたが、振り返る良い機会になったと思います。
- ・ 建学の精神をすべての授業に結びつけることはなかなか難しく、ワークショップの際も先生方と頭を悩ませてしまいましたが、大学全体でこのような共通の考えがあることで、白百合らしさが形成されていくのだろうと感じました。
- ・ 「建学の精神」については、その原点を確認するとともに、現在の状況に応じて必要とされる力と照らし合わせながら、大学・学園全体で共通に目指すものを確かめあっていくことが大切だと思います。その意味で、毎年、関係者全員で確認・検討する機会をもつことは大切だと思いました。
- ・ グループに分かれてテーマについて話し合うことで、それぞれが建学の精神について思うことや、業務の中で感じることを共有できて有意義だった。

(実施方法・運営等)

- ・ 時間の配分は難しいですが、グループワークの時間をもっと割ければなお良いと思いました。
- ・ 部署によってはマイク機能がついておらずチャットを通して時差のあるコミュニケーションとなったり、学生対応で途中退室するケースもあったようだ。夏休み期間を利用したり、マイク機能なども使える環境が整えられるとよりスムーズなグループワークができるのではないかと思う。
- ・ 教職員のコミュニケーションの機会が少なくなっている中、他部署の方と意見交換をできる貴重な機会であったと思う。
- ・ 業務がたて込む時間帯だったため、後日に動画視聴ができるのはありがたいです。

(講師や運営スタッフへの御礼など)

- ・ 本学の設立に関する歴史伝統に触れ、さらにキリスト教に関して、新たに学び直すことができ興味深かったです。この研修会を企画なさった先生方に感謝しています。

なお、本研修会の内容は、白百合女子大学教育プログラム推進助成「宗教学科目のルーブリック策定と教科間連携～建学の精神に基づく教育成果の可視化と質保証～」(実施責任者：海老原晴香准教授)の内容とも関連が深いため、建学の精神と各自の教育活動・業務とのつながり、及び「白百合らしい教育」のイメージやアイディアについての意見も回答を依頼した。具体的な内容分析については、今後、白百合女子大学研究紀要等で報告される予定である。

2023年1月26日
FD推進委員会

SD 研修会「データサイエンスに関する動向と本学における取り組みについて」実施報告書

デジタル時代に必要なりテラシーを高めるために、2022 年度から高等学校における教科「情報」のカリキュラムがより専門的な内容に改訂された。また、大学等が実施する数理・データサイエンス・AI 教育プログラムに対して文部科学大臣が認定する制度も創設されるなど、データサイエンスを適切に理解し活用する力の育成が求められている。このような状況に対応するため、本学においても今年度より授業科目として「はじめてのデータサイエンス」を開講している。

そこで、データサイエンスに関する動向を学ぶとともに、大学教育に求められている課題やその対応について教職員間で共通理解を図り、授業及び業務改善に繋げるため、学内SD研修会を企画した。詳細は以下の通りである。

日 時 : 2022年12月5日(月) 16:30~18:00
方 法 : Zoom でのリモート配信
テ ー マ : 「データサイエンスに関する動向と本学における取り組みについて」
講 演 者 : 匂坂智子先生(基礎教育センター准教授)
対 象 : 全専任教員・全職員(非常勤職員の参加は任意)

講演内容 : 講師より、今なぜデータサイエンスが一般社会や大学教育において注目を集めているのかについてと、AIの社会実装が進み、政府は「AI戦略2019」として2025年の達成を目標に国を上げて「数理、データサイエンス、AI」教育の推進を進めていることが説明された。社会でおきている労働需給などの社会構造の変化についての説明がなされ、チャットボットやディープフェイクなどのAI活用の事例も紹介された。さらに、主要な技術として、大量の画像データの中から猫を判別するなどといったディープラーニング(深層学習)の概要について、わかりやすい説明がなされた。ディープラーニングの応用例として、顔画像から性別や年齢を推定する、手書き文字画像をテキストに変換するといった例が紹介された。また、AI利活用による負の側面としてデータバイアスの事例が説明された。最後に、本学の取り組みと目指すところとして、文科省の認定制度、データサイエンス・情報科目について説明がなされた。2022年4月より開講された「はじめてのデータサイエンス」の講義内容や、その必修化など情報科目の今後の計画が説明された。

また、講師からは、manabaを通じて、データサイエンスに関する幅広く、詳細な資料のリンクが示され、さらに受講者個々人で学びを深めるのに役立つ情報が提供された。

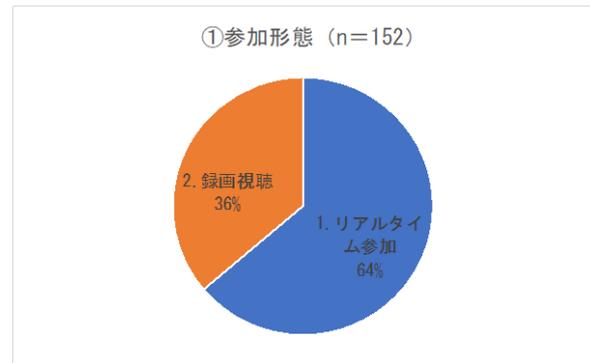
参加者アンケート集計結果(回答数152名) ※1月21日集計時点

- 1 参加人数 : 専任教員77/80名(参加率96%) 専任職員53/57名(参加率93%)
※2022年5月1日在籍の専任(教員84名、職員58名)のうち、サバティカル、休職等を除く
教員80名、職員57名が集計対象
(参考)非常勤職員 24/76名も参加。 参加した教職員の総計154名

2 結果

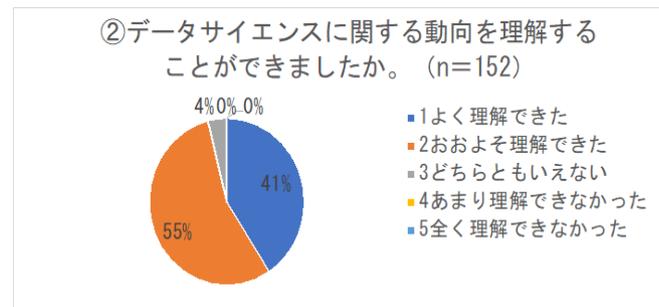
① 参加形態 (n=152)

リアルタイム97名, 動画視聴55名



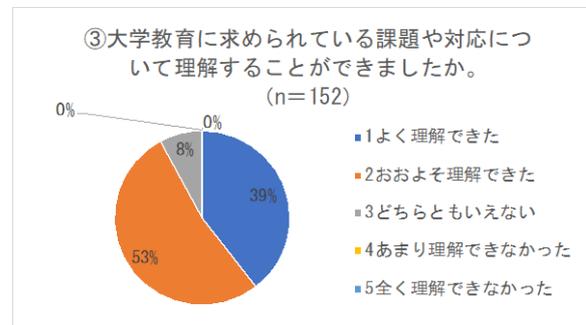
② データサイエンスに関する動向を理解することができましたか (n=152)

1よく理解できた	62	名
2おおよそ理解できた	84	名
3どちらともいえない	6	名
4あまり理解できなかった	0	名
5全く理解できなかった	0	名
合計	152	名



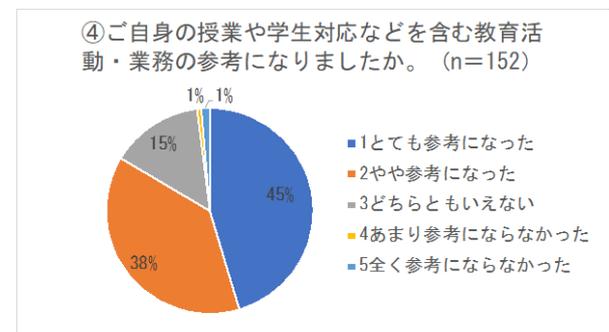
③ ③大学教育に求められている課題や対応について理解することができましたか (n=152)

1よく理解できた	60	名
2おおよそ理解できた	80	名
3どちらともいえない	12	名
4あまり理解できなかった	0	名
5全く理解できなかった	0	名
合計	152	名



④ ご自身の授業や学生対応などを含む教育活動・業務の参考になりましたか (n=152)

1とても参考になった	69	名
2やや参考になった	58	名
3どちらともいえない	22	名
4あまり参考にならなかった	1	名
5全く参考にならなかった	2	名
合計	152	名



⑤ 本研修会の内容を今後どのように生かせると思いますか。(自由記述) (n=152)

授業や業務に何らかの形で生かせるという記述が63名からあった(WGメンバー等運営スタッフを含む)。また、今後もデータサイエンスに関する情報提供についての要望の記述もあった。回答例は以下の通り。

- ・ AIと脳科学のリンク、精神活動も含めて視野を広くできたので、これを授業の素材にしたい。
- ・ 高等教育に要請されている文科省や社会の流れの中で、本学の(多様な)学生にとって、また、彼女たちが専門とする各々の専門分野との関連性の中で、どのようなかたちを取るのがよいかを意識して授業やカリキュラムを検討・議論する上で活かしていけると思いました。
- ・ ディープ・ラーニングの原理を知り、その功罪を学んだことで、今後大学教員として生活する中で、データ・サイエンスの話題が出たときに、予備知識を持って議論に臨めるようになる。
- ・ どの部署であっても、学内で行われている教育内容(特に全学共通の必修科目の内容)を正しく知っておくことは、業務上の基本知識としても必要かと思えます。今回の研修動画は、職員の新人研修にも生かせるのではないかと思います。教職員のITスキルにも差があるので、差支えがなければ「はじめてのデータサイエンス」のオンデマンド教材を希望する教職員も受講できると良いのではないかと思います。
- ・ 文系大学というと、数理やデータサイエンス・AI教育といった内容とはかけ離れたイメージがあるが、こういった取り組みを行っていることを広報的に活用することは良いことだと思う。

⑥ 本研修会に対するご意見やご感想

全部で101名より回答(WGメンバー等運営スタッフを含む)。

主な感想)

- ・ とてもわかりやすい講義や資料についての感謝の言葉
- ・ 大変興味深い講義でとても参考になったという感想の言葉
- ・ タイムリーな内容に対する肯定的な意見
- ・ 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの実践とAI人材育成の必要性への再認識
- ・ データサイエンス科目と学科科目のカリキュラムとの連動の必要性への意見

意見)

- ・ 教職員の情報処理能力を向上させるための研修やプログラムの導入
- ・ 教職員向けにも、希望すればオンデマンド講座が受けられるような仕組みへの要望
- ・ この分野に苦手意識を持つ学生への対応の必要性
- ・ この分野は日進月歩なので、今回の研修会以降の動きについて、何らかのニューズレター的なものでの情報発信への要望
- ・ データサイエンスを学んだ学生を想定した通常の授業のやり方について、事例や助言を視聴できるコンテンツへの要望

2022年度 各学科・センターにおけるFD・SD活動の記録

カトリック教育センター	▶ テーマ (タイトル)	DP改訂
	▶ 種別 (FD/SD)	FD
	▶ 開催日時	2022年5月26日 (木) 10:00-12:00
	▶ 場所 (開催方法)	オンライン
▶ 主催	カトリック教育センター	
▶ 講師	-	
▶ 参加人数・氏名	3名	
▶ 内容 (概略・成果等)	宗教学科目のディプロマ・ポリシー改訂のため、検討を実施した。他大学の例を参考に、具体的な変更を行った。	
▶ テーマ (タイトル)	魅力的な授業とセンター運営検討会	
▶ 種別 (FD/SD)	FD/SD	
▶ 開催日時	2022年5月27日 (金) 14:45-16:30	
▶ 場所 (開催方法)	セントポール・コイノニアルーム	
▶ 主催	カトリック教育センター	
▶ 講師	-	
▶ 参加人数・氏名	5名	
▶ 内容 (概略・成果等)	「学生にとって魅力的な宗教学科目の授業運営、カトリック教育センター運営とは」をテーマとし、教職員 (専任教員+助手) で検討を実施した。授業外の取り組みについても検討し、学生にカトリック教育センターの活動に関心を持ってもらうための企画として、センター報『ぶどうの木』での広報案を定め、新たに座談会を実施した。	
▶ テーマ (タイトル)	DP/CP改訂	
▶ 種別 (FD/SD)	FD	
▶ 開催日時	2022年6月2日 (木) 10:00-12:00	
▶ 場所 (開催方法)	オンライン	
▶ 主催	カトリック教育センター	
▶ 講師	-	
▶ 参加人数・氏名	3名	
▶ 内容 (概略・成果等)	宗教学科目のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー改訂のため、検討を実施した。他大学の例を参考に、具体的な変更を行った。	
▶ テーマ (タイトル)	2022年度宗教学科目講師会 (宗教学科目担当者FD研修会)	
▶ 目的	宗教学科目の現状と課題を共有し、よりよい授業実践を目指すため	
▶ 種別 (FD/SD)	FD	
▶ 開催日時	2023年3月17日 (金) 10時-11時30分	
▶ 場所 (開催方法)	オンライン (zoom)	
▶ 主催	カトリック教育センター	
▶ 講師	カトリック教育センター専任教職員	
▶ 参加人数・氏名	13名: 石井、海老原、山口 (菜)、光藤、佐々木、田口、保坂、豊島、松本、延江、中西、村上、佐藤	
▶ 内容 (概略・成果等)	主テーマ「宗教学科目の成績評価について」 ・本学の現状 ・授業運営に関わる来年度の変更点 ・カリキュラム改革の動き ・学生懇話会で出された意見 ・学生対応等についての情報共有 ・ルーブリック評価の事例紹介 ・質疑応答/意見交換	
▶ 記入者	海老原晴香	

基礎教育センター

▶ テーマ (タイトル)	情報科目FD
▶ 目的	全学必修科目「情報リテラシー」担当教員間で認識の共有を図る
▶ 種別 (FD/SD)	FD
▶ 開催日時	2022年12月20日 (火) 10時30分～13時
▶ 場所 (開催方法)	4105教室
▶ 主催	基礎教育センター
▶ 講師	-
▶ 参加人数・氏名	4名 (匂坂智子・山梨有希子・大塚秀治・岩淵匠)
▶ 内容 (概略・成果等)	以下の内容につき、授業担当者間で情報の共有・検討を行った。 1. 第12回までの学生状況 ・学生の出席状況 ・課題提出状況 ・タイピング・小テストの点数の伸び 2. 教材の内容や量、難易度について 3. 期末試験内容・実施方法・成績評価方法について 4. SAの仕事内容について
▶ 記入者	山梨有希子

国語国文学科

▶ テーマ (タイトル)	新年度留学生科目の打ち合わせ
▶ 種別 (FD/SD)	FD
▶ 開催日時	2022年4月4日 15時30分～16時30分
▶ 場所 (開催方法)	R9204
▶ 主催	国語国文学科
▶ 講師	-
▶ 参加人数・氏名	5名 (常盤智子、武田 加奈子、川瀬卓、有吉英心子 (非常勤講師)、栃木亜寿香 (非常勤講師))
▶ 内容 (概略・成果等)	新年度における留学生科目を打ち合わせた。
▶ テーマ (タイトル)	日本語副専攻打ち合わせ
▶ 種別 (FD/SD)	FD
▶ 開催日時	2022年6月16日
▶ 場所 (開催方法)	第3会議室
▶ 主催	国語国文学専攻
▶ 講師	-
▶ 参加人数・氏名	4名 (常盤智子、武田加奈子、川瀬卓、鈴木萌 (副専攻助手))
▶ 内容 (概略・成果等)	日本語副専攻運営のための懇談を行った。
▶ テーマ (タイトル)	入試問題の質向上のための懇談
▶ 種別 (FD/SD)	SD
▶ 開催日時	2022年6月23日 14時15分～16時10分
▶ 場所 (開催方法)	大会議室
▶ 主催	国語国文学科
▶ 講師	-
▶ 参加人数・氏名	11名
▶ 内容 (概略・成果等)	国語入試問題の質を向上させるため、改善点などを検討した。

国語国文学科

▶ テーマ (タイトル)	入試問題の質向上のための懇談
▶ 種別 (FD/SD)	SD
▶ 開催日時	2022年7月14日14時15分～16時10分
▶ 場所 (開催方法)	大会議室
▶ 主催	国語国文学科
▶ 講師	-
▶ 参加人数・氏名	11名
▶ 内容 (概略・成果等)	国語入試問題の質を向上させるため、改善点などを検討した。
▶ テーマ (タイトル)	入試問題作成にあたっての過去問データベース活用の研修
▶ 種別 (FD/SD)	SD
▶ 開催日時	2022年9月15日13時30分～14時
▶ 場所 (開催方法)	大会議室
▶ 主催	国語国文学科
▶ 講師	名木橋忠大
▶ 参加人数・氏名	11名
▶ 内容 (概略・成果等)	株式会社ジェイシー教育研究所のソフト「エグザム」を用い、講師 (名木橋) がその使用法を解説した。

フランス語フランス文学科

▶ テーマ (タイトル)	フランス語フランス文学科SD講習会
▶ 種別 (FD/SD)	SD
▶ 開催日時	2022年6月30日 16:30～18:00
▶ 場所 (開催方法)	第2仏研究室
▶ 主催	フランス語フランス文学科
▶ 講師	二村淳子
▶ 参加人数・氏名	8名
▶ 内容 (概略・成果等)	Kahoot! やGather townの概要説明と、これらのアプリを使った授業実践例についてお話しいただきました。

英語英文学科

▶ テーマ (タイトル)	カリキュラム・入試会議
▶ 種別 (FD/SD)	FD
▶ 開催日時	2022年5月19日13:00～14:00
▶ 場所 (開催方法)	オンライン (Zoom)
▶ 主催	英語英文学科長
▶ 講師	-
▶ 参加人数・氏名	13名
▶ 内容 (概略・成果等)	文学部共通科目・学科横断プログラムの検討、総合型選抜要項・実施計画説明、検討
▶ テーマ (タイトル)	カリキュラム会議
▶ 種別 (FD/SD)	FD
▶ 開催日時	2022年6月23日13:00～14:00
▶ 場所 (開催方法)	オンライン (Zoom)
▶ 主催	英語英文学科長
▶ 講師	-
▶ 参加人数・氏名	13名
▶ 内容 (概略・成果等)	文学部改革、受験生獲得方策の現状・他大学実施状況説明、提案と検討

▶ テーマ（タイトル）	カリキュラム会議
▶ 種別（FD/SD）	FD
▶ 開催日時	2022年7月14日13:00～14:30
▶ 場所（開催方法）	第3会議室
▶ 主催	英語英文学科長
▶ 講師	-
▶ 参加人数・氏名	14名
▶ 内容（概略・成果等）	プログラムとカリキュラムの説明及び質疑応答、入試
▶ テーマ（タイトル）	次年度新規科目（クラス）検討会議
▶ 種別（FD/SD）	FD
▶ 開催日時	2022年7月21日13:00-15:00
▶ 場所（開催方法）	第三英研
▶ 主催	英語英文学科教務委員
▶ 講師	-
▶ 参加人数・氏名	7名
▶ 内容（概略・成果等）	22年度～新規選択必修科目の23年度増設クラス分内容、担当教員等に関する意見交換・方針決定
▶ テーマ（タイトル）	TOEIC研修会「TOEIC試験プレイスメントテスト利用の現状と課題」
▶ 種別（FD/SD）	SD
▶ 開催日時	2022年9月14日13:00-14:25
▶ 場所（開催方法）	第三英研及びオンライン
▶ 主催	英語英文学科長
▶ 講師	中島元威氏（国際ビジネスコミュニケーション協会）
▶ 参加人数・氏名	12名
▶ 内容（概略・成果等）	第一部：TOEIC L&RとS&Wに関する概要説明、質疑応答 第二部：他大学導入状況・活用事例説明、質疑応答
▶ テーマ（タイトル）	一般選抜・英語における高校新課程への対応に
▶ 目的	高校新課程に対応した入試一般選抜科目「英語」の問題作成について、学科教員がその必要性和問題点、解決方法に関する理解を共有すること
▶ 種別（FD/SD）	SD
▶ 開催日時	2022年10月27日（木）13:15～14:15
▶ 場所（開催方法）	第三会議室
▶ 主催	学科長
▶ 講師	米田先生（2022年度入試問題作成担当責任者）
▶ 参加人数・氏名	岩政、川口、水越、宮本、木原、倉住、ナイト、箕輪、米田、ジョンソン、スミス、上野、船田（敬称略、順不同）計13名
▶ 内容（概略・成果等）	文部科学省の方針、共通テストの発展、民間英語試験の動向を、引き続き注視すると共に、本学入試制度の抜本的変更を見据えて、本学科担当の「一般選抜・英語」を内外の変化に柔軟に対応させられるようにするための解決策が提案された。【成果】学科内で高校新課程に対応した大学入試制度についての知識が共有され、本学の現状における問題点の指摘を受けて、現実的に可能なその最良の解決策として作問方法についてのコンセンサスが得られた。
▶ 記入者	土井

英語英文学科

▶ テーマ (タイトル)	英文科カリキュラムのスリム化への展望
▶ 目的	(1) 英文科カリキュラムのスリム化に関する方針について、学科のコンセンサスを取ること (2) 学科全員 (教務業務を担当したことのない and/or 今後も担当する予定のない専任・特任教員含む) が英文科カリキュラムの全容への理解を共有すること
▶ 種別 (FD/SD)	SD
▶ 開催日時	2022年12月8日 (木) 13:00~14:30
▶ 場所 (開催方法)	第三会議室
▶ 主催	学科長
▶ 講師	水越先生 (2021-22年度カリキュラム委員)、米田先生 (2017-18年度教務委員)
▶ 参加人数・氏名	岩政、水越、宮本、木原、倉住、ナイト、箕輪、米田、ジョンソン、スミス、上野、島田、船田、土井 (敬称略、順不同) 計14名
▶ 内容 (概略・成果等)	2023年度以降の英語英文学科カリキュラムの展望に関する説明 (特に一部科目廃講・再編について)、来年度時間割 (学部・院)、英語英文学科必修科目・他学科外国語科目のクラス分け表、英語年間スケジュール、非常勤講師リスト等の資料を用いながら現状とその問題点に関する分析と指摘がなされた。また、それらの問題への将来的な解決策として、選択必修IIの科目数精選、卒業要件単位数の配分変更といった案が提示された。【成果】これにより、教務やカリキュラムの担当経験の有無に関わらず、学科専任・特任教員全員に学科カリキュラムの全容や現状問題点についての知識を共有することが可能となった。今回講演者から提案された解決策については今後改めて検討する場を設けることが合意されて本研修会は締めくくられた。
▶ 記入者	土井

児童文化学科

▶ テーマ (タイトル)	ICT勉強会
▶ 種別 (FD/SD)	FD/SD
▶ 開催日時	2022年6月2日14:00-14:30
▶ 場所 (開催方法)	児童文化学科会議室
▶ 主催	児童文化学科
▶ 講師	-
▶ 参加人数・氏名	9名
▶ 内容 (概略・成果等)	授業へのICT活用の方法、またオンデマンド講義のメリットやデメリットについて、稲田豊史『映画を早送りで見ると人たちは』(光文社新書、2022)の内容を参考にしながら情報交換した。 各教員、事務助手がそうした状況を踏まえて、教育の質を損なわずに今後どのようなICT活用を行っていきけるかについて議論した。
▶ テーマ (タイトル)	学生対応に関する情報交換会
▶ 種別 (FD/SD)	FD/SD
▶ 開催日時	2022年6月23日14:00-14:30
▶ 場所 (開催方法)	児童文化学科会議室
▶ 主催	児童文化学科
▶ 講師	-
▶ 参加人数・氏名	9名
▶ 内容 (概略・成果等)	履修状況や体調不良等で学科として対応が必要な学生について、教員、事務助手それぞれの立場から情報交換を行った。また、原則対面授業となっている今期の状況で、オンデマンド講義の出席状況のみが芳しくない学生に対してどのような対応が相応しいかを議論した。

<p>▶ テーマ（タイトル）</p> <p>▶ 目的</p> <p>▶ 種別（FD/SD）</p> <p>▶ 開催日時</p> <p>▶ 場所（開催方法）</p> <p>▶ 主催</p> <p>▶ 講師</p> <p>▶ 参加人数・氏名</p>	<p>ハラスメント防止研修</p> <p>教員、職員双方に必要と思われるハラスメントについて理解を深める</p> <p>SD</p> <p>2022年9月29日 13：00～13:30</p> <p>3115室（対面およびWeb）</p> <p>発達心理学科</p> <p>涌井 恵（白百合女子大学准教授・FD推進委員）</p> <p>（計9名）：専任教員：宮本 信也、涌井 恵、堀口 康太、松田 なつみ、太田 百合子、豊村 かなみ 非常勤教員：根本 泰明、大島 真里子、専任職員：平井 亜希子</p>
<p>▶ 内容（概略・成果等）</p>	<p>教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員に対し、必要な知識及び技能を修得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修の機会を積極的に設けることが各学科において、求められている。そのため、今回は教員、職員双方に必要と思われるハラスメントについて理解を深める研修を企画した。</p> <p>まず、下記のweb講座を視聴した。 厚生労働省雇用環境・均等局「あかるい職場応援団」労働者向けハラスメント オンライン研修講座 https://www.no-harassment.mhlw.go.jp/learning/</p> <p>途中確認クイズを行い、ハラスメントの定義や内容について全員で確認した。その後、意見交換を行い、ハラスメントについての理解を深めた。いじめとハラスメントの相違や、授業中寝ている学生について、どのように関わればセクハラ等にならないか、について話し合った。教職員で共通の研修資料に触れ、共通理解できたことや協議ができ、学生対応や職員間のコミュニケーションについて考える上で大変有意義な研修となった。</p>
<p>▶ 記入者</p>	<p>涌井 恵</p>
<p>▶ テーマ（タイトル）</p> <p>▶ 目的</p> <p>▶ 種別（FD/SD）</p> <p>▶ 開催日時</p> <p>▶ 場所（開催方法）</p> <p>▶ 主催</p> <p>▶ 講師</p> <p>▶ 参加人数・氏名</p>	<p>学科内FD研修（レスポンス等ICT機器の利用について）</p> <p>授業でのICT機器等の活用（レスポンス、マナバコース、リアクションペーパーの活用法）について学ぶ共に、各自の取り組みを情報交換し、授業スキルの向上をはかる。</p> <p>FD</p> <p>2022年10月20日（木）14:30-15:00</p> <p>3115室 対面</p> <p>発達心理学科</p> <p>眞榮城和美</p> <p>（計9名）：専任教員：菅原まゆみ、眞榮城和美、涌井 恵、松田 なつみ、太田 百合子、豊村 かなみ 非常勤教員：根本 泰明、大島 真里子、専任職員：平井 亜希子</p>
<p>▶ 内容（概略・成果等）</p>	<p>レスポンスについて講師の眞榮城先生より、実際のweb画面を見ながら、レクチャーいただきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加されていた先生方が実際の授業でどのようにレスポンスを使っているか ・キャンパススクエアとの使い分け、 ・双方の良いところ・使いにくいところなどなど、について意見交換がなされ、参加者の授業スキルアップに役立つ情報交換を行う事が出来ました。
<p>▶ 記入者</p>	<p>涌井 恵（FD推進委員）</p>

▶ テーマ (タイトル)	受験者拡大の方策についての学科懇談会
▶ 種別 (FD/SD)	SD
▶ 開催日時	2022年4月14日13:00~14:30
▶ 場所 (開催方法)	オンライン
▶ 主催	初等教育学科
▶ 講師	-
▶ 参加人数・氏名	13名
▶ 内容 (概略・成果等)	前年度の入試状況を鑑み、受験者拡大のための方策について学科内で意見交換を行った。 具体的には、入試の動向確認および育てたい学生像や本学初等教育学科の特長の明確化なども話し合った。また、具体的な対策としてオープンキャンパスでの対応など短期的な視点と、設備の改善や子育て支援センターの設置など中・長期的な視点での意見交換も行った。大学案内以外の告知媒体として学科独自のパンフレット作成や学科ホームページの活用などについても検討を行った。
▶ テーマ (タイトル)	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指す教育
▶ 目的	中央教育審議会答申(2021)において「個別最適な学び」と「共同的な学び」の一体的な充実が提言されたことを踏まえ、これまでの学校教育の課題と今後求められる対応について理解する。
▶ 種別 (FD/SD)	FD
▶ 開催日時	2023年1月14日(土) 15:00~17:00
▶ 場所 (開催方法)	R1308(対面)
▶ 主催	白百合女子大学人間総合学部初等教育学科「新しい教育の在り方研究会」
▶ 講師	奈須正裕先生(上智大学総合人間科学部教育学科 教授)
▶ 参加人数・氏名	教員(8名)【初等】初等:神永典郎、中田正弘、土橋久美子、坂本正彦、曾我部多美、川口潤子、石沢順子、【発心】涌井恵、職員(2名):横田英治、有馬美耶子
▶ 内容 (概略・成果等)	最初に中央教育審議会(2021)による答申「『令和の日本型教育』の構築を目指して~全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」の概要について説明がなされた。この背景にある従来の「日本型学校教育」の課題として、正解主義や過剰な同調圧力が挙げられた。また、コロナ禍による臨時休業中に、子供たちが学校や教師からの指示・発信がないと学びを止めてしまう実態が見られたことから、「自立した学習者」を十分に育てられていなかったのではないかという点や、大人がこの状況(子供が学びを止める)を当然と思っていたこと自体も問題であることが指摘された。そのため、これからの学校は、全ての子供が「自立した学習者」に育つ場として期待されているとのことであった。 日本では古来より寺子屋において個別指導が行われていたが、明治初期にアメリカから伝わった効率的な一斉指導が主流となった経緯が説明された。一方、その間にも国内外では、個別の学びや協働的な学びに関する取り組みはいくつか行われており、それらの事例も紹介された。その際、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のためには、教師が主体となる「個に応じた指導」を学習者の視点で再整理し、「個別最適な学び」にしていく必要があり、授業の中でその成果を「協働的な学び」に生かし、さらに「個別最適な学び」に還元することで、「主体的・対話的な深い学び」の実現に繋げる必要があることも示された。また、現在、発達障害や不登校、経済的な困難、海外ルーツ、特定分野に特異な才能をもつなど子供の多様性が問題になっているが、子供の発達権や学習権を保障する視点から、上手く学べない場合は、カリキュラムや学習環境に改善の余地があると考えべきとの指摘もあった。 具体的な対応の例として、「教師が教える教育」から幼児教育で行われている「環境による教育」をレパートリーに加えること、「何を、なぜ、どのように学ぶのか」などの情報を子供に開示すること、対面集合×非同期型コミュニケーションとしてICTを生かした教室における個別最適かつ自発的協働の学習を取り入れること、子供が授業を進めることなどが示された。その際、全体の2割程度を子供たちに委ねられれば、授業は教師と子供たちで創っていくという感覚になり、学びや暮らしに対する子供たちの構えが大幅に変わるというお話もあった。 全体として、子供は教師が教えなければ学ばないため、教師の仕事は教授と管理であるという従来の考え方から、子供は有能な学び手であり、適切な環境と出会えば、自ら進んで学ぶため、教師は学習環境の整備や状況の見とり、支援を行うといった新しい子ども観への転換及び授業のパラダイムシフトが重要であるとの説明がなされた。 本研修を通して、日本型教育の変遷や課題点、現在求められている方向性などを改めて確認することができた。また、子ども観の転換や授業のパラダイムシフトについては、大学教員にとっても大切な視点であり、日々の授業や学生対応を振り返る機会となった。初等教育学科では、幼児教育・児童教育の両コースがある点を生かして、双方の教育のメリットや工夫点について学ぶ機会を増やしていくことも有用だと考えられた。
▶ 記入者	石沢順子

▶ テーマ（タイトル）	保育者・教員養成機関における教職員間の“協働”
▶ 目的	保育士養成協議会主催の実習指導者認定講習の資料を基に、子どもを取り巻く現状や実習に関する近年の動向について理解する。また、充実した実習を行うための保育者・教員養成機関における教職員間のより良い“協働”について考える機会とする。
▶ 種別（FD/SD）	SD
▶ 開催日時	2023年3月1日（水）9：00～10：20
▶ 場所（開催方法）	オンライン（Zoom）
▶ 主催	初等教育学科
▶ 講師	目良秋子教授・高橋貴志教授
▶ 参加人数・氏名	教員12名（講師含む）宮下孝広、神永典郎、坂本健、中田正弘、曾我部多美、坂本正彦、川口潤子、大貫麻美、椎橋げんき、石沢順子 職員2名：佐藤哲子、山内幸子 合計14名
▶ 内容（概略・成果等）	目良教授からは、実習指導者認定講習資料を基に日本の子どもを取り巻く現状や保育士養成の課題について説明がなされた。現在は「新子育て安心プラン」（令和3年度開始）に基づき、待機児童解消のために地域の特性に応じた支援、魅力向上を通じた保育士の確保などの対策が進められており、「地域における保育所・保育士等の在り方に関する検討会とりまとめ 概要」では保育士の確保・資質向上についても検討がなされていることが共有された。 高橋教授からは、保育者養成校の実習担当者が一定の専門性を備えた上で実習指導を行い、実習の質の維持・向上を図るために実習指導者認定講習が開催されており、その内容のうち保育実習の理念、保育士養成倫理綱領、課題などが紹介された。また、学科ディプロマ・ポリシーに合わせた実習指導の実施、実習先との保育方針の共有についても改めて見直す必要性についても言及があった。 また、実習先としてふさわしい園を選ぶことが大切であり、実習先との協働のためには園と養成校の平等な関係、実習のねらいや方法の相互理解、適切な保育士資格取得についても検討が必要であることが確認された。養成校内での協働には、実習担当者以外との情報共有や協力体制が欠かせないとお話もあった。坂本健教授からは施設実習の現状について情報提供がなされ、保育士養成の現状に関する理解が深まった。グループディスカッションでは、小学校の実習においても検討が必要であることや現場と養成校の実習指導の協働として、実習園の担当者を大学に招くなどの事例も紹介された。本研修を通して、実習指導の現状や課題を把握するとともに協働に必要な視点などを改めて確認することができた。充実した実習を行うために、今後もこのような機会を持ち、継続的に研修を重ねることが重要だと考えられた。
▶ 記入者	石沢順子